

NEWS LETTER

～地域包括ケアと地域共生社会の実現に向けた学びを共有するゼミ～
会議運営支援モデルと広報支援モデルの取り組みを紹介します。

発行：基幹型包括支援センター
NPOまち育てセンターた、岡崎市長寿課
20の地域包括支援センター

点が線でつながらない組織をどうするか

by 中央包括（梅園学区）

【目的&ねらい】協議体形成のため、情報や課題を共有することで学区に横のつながりを作ることを目指す。各町の取り組みを互いに意識してもらいながら、見守り体制や通いの場作りにつないでいきたい。

【概況】学区が広く、幹線道路が通り、町内ごとの年齢構成割合や生活課題が異なる。高齢化率が40%を超え、ケアが必要な古いまちでは担い手が不在で若いまちの方が活動が起こしやすい状況。地域差ゆえに全体での身動きが取りづらく、各団体のつながりや相互の理解が必要だと見受けられる。

【活動報告】

9月総代会長、学区福祉委員長と居場所づくりの話し合い。サロンは必要と思うが、担い手が難しい。気軽に地域のことを話ができる場があるのはいいねとの意見が出た。

10月17日「連絡フローチャートの作成」の話し合いを実施。
・計画/「フローチャート」→「暮らしの相談窓口一覧」へ変更イベント、民生委員さんから配布。来年度は一人暮らし訪問時に配布2か月に1回は「包括の案内、困った時はどうする？」のチラシを回覧し、相談先を周知していく。

・キーパーソン/総代会長、学区福祉委員長、梅園協議会長、民生委員会、主任児童委員、婦人自主防災

・成果/地域で役割を担っている方たちも周辺町内で色々な考えがあることが分かった。今後も地域のことを話し合いすることが決まった。

・課題/どの小地域で話を進めていくか。

【助言】10月29日籠田公園周辺7町連合にて周辺の町内アンケートの結果報告がある、何かヒントがあるかもしれない。

今回のキモ！

地域の方が集まって、地域のために何ができるのか話し合いをすれば、それは協議体。

※協議体とは「定期的な情報の共有・連携強化の場」です。

協議体が注目すべきは「地域の困りごと」
×なかなか解決できない難しい問題
○住民が協力し合えば解決できそうな取り組みやすい課題（買い物の話、サロンの話、ゴミ捨ての話、見守りの話など）

【概況】平成30年2月に福祉相談窓口を設置。圏域全体が山間部に位置し、集落ごとの繋がりは強い。平成18年に岡崎市と合併し、学区を見直し。福祉委員との活動が盛んのため、今後、他の組織との繋がりが強くなり、更に発展することが期待される。

ふくまどをご存じですか？ 季刊誌ふくまどを発行しています

by ふくまど/福祉総合相談窓口（額田学区）

【目的&ねらい】

季刊誌ふくまどをきっかけに岡崎市額田センター・こもれびかんを拠点とする「ふくまど：福祉総合相談窓口」の利用促進、知名度がアップし、必要な人が早期に気軽に相談できる。地域の活動や現状を知るきっかけや地域での交流が広がる。

【活動報告】

・11月1日に季刊誌ふくまどを発行。周知方法は回覧板、サロンなど地域の活動時に手渡し

・地域の活動を洗い出して一覧表にした。

・成果/情報発信のプロに助言をもらって、通信を工夫。

掲載希望の話をもったりと、周知率がアップしていると感じる。

ネタ帳を作ることが業務の効率化もでき、編集会議でも会話がしやすい。読み手の目線でアドバイスがもらえ、有益だった。

・課題/回覧では見ない人もいるため、全戸配布してほしいという声はあるが、予算の問題もあり、検討は必要。現状は地域に出向いた際等に配布。

・予定/次回発行は2月1日

完成したフォーマットを使用し、編集会議で情報共有・協議・作成。

【助言】記事にする内容の伝えたいポイントを絞って文章を作成することが大切
誰に何を伝えたいのかを整理（報告なのか、啓発なのか、募集なのか）



見出しと中身を合わせること。
日頃からネタ探しを。
同じ言葉の重複に注意（3回以上は気を付ける）。

◆編集後記◆私たちが住む地域は、サロンをするのはこの単位、お祭りをするときはこの単位と活動によって、目には見えないけれど、いろいろな単位に分けられているなあと思います。地域で活動を始めるときはどんな単位で行うといいのかと考えるのは難しいですが、悩みながらも地域の方と楽しく意見を出し合っているといいなあと思いました。
広報モデルでは講師を招いてフォーマットが完成したため、読みやすい伝わる広報誌がに広がることを期待します。